

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472500244		
法人名	社会福祉法人 むつみ福祉会		
事業所名	グループホームむつみ園		
所在地	三重県松阪市嬉野須賀領町477-8		
自己評価作成日	令和 元年 8月 1日	評価結果市町提出日	令和 元年 10月 15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2472500244-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元年 9月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様の尊厳と自由を尊重し個々のニーズに合わせ穏やかに自立生活をして頂けるように支援に努めております。同一法人内のデイサービスへの慰問行事への参加や法人内にある畑を利用し、利用者様と共同作業を行ったり、グループホーム内での毎月の行事、法人内での行事に参加して頂く事により、季節を感じて頂きグループホーム以外の利用者様との交流や、地域の皆様との交流を図る事で生きる幸せを作る、提供する場になるよう支援に努めております。健康面に関しては小規模特養の看護師に訪問して頂き相談を実施し、そのアドバイスを基に医療機関と連携し入所者様の健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松阪市北部に位置し、山と田園風景に囲まれた静かな環境に立地している。広い敷地内には同一法人の小規模特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接しており、行事や研修など連携を図りながら協力体制を築いている。法人理事長・施設長・管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させ職員の意欲の向上に努めている。職員は日課にとらわれない、利用者一人ひとりのペースにあわせた家庭的な雰囲気での支援に取り組んでいる。広い敷地には花壇や菜園が作られ実のなる木が植えられており、利用者・職員は季節の花、野菜・果実の収穫を楽しみながら、四季の風景を感じてのんびりゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい所に運営理念を掲示して、職員1人ひとりが常に意識し日々の業務に取り込んでいる。法人理念に基きグループホーム独自の目標を年度毎に作っている。	法人理念に基づき、毎年、全職員が意見を出し合い、グループホーム独自の目標を作成している。今年度目標「寄り添う気持ち 元気に明るく 心を込めて」を共有し、確認し合いながら自身の目標として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、介護教室・餅つき大会を開催して地域の方々に参加して頂いたり、地域で行われる行事や奉仕活動(地域ゴミ集め)に職員が参加したり相互の交流を図っている。	事業所の行事に地域住民が参加したり、地域の行事や奉仕活動に職員が参加している。日常的に特養・デイケアとの交流が行われ、ボランティア・園児・小学生などの訪問と一緒に楽しんでいる。自治会の会議に法人のデイケアセンターを利用するなど日頃から事業所と地域の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所発行の広報誌や運営推進会議の中でご家族様や地域の皆様の相談や質問に答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、家族様、松阪市、地域包括センター、民生委員、嬉野地域振興局の皆様に参加して頂き、園での取り組みを報告して小さな事でもアドバイス等を頂きサービスの向上に生かしている。	家族・地域住民代表、学識経験者、市町・地域包括支援センター職員、民生委員などが出席して、年6回、定期的に隣接する特養と合同で開催している。事業所の現状報告、利用者の状況及びヒヤリハット報告を行い、行事報告はスライドを用いて行われている。出席者からの意見や情報提供をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松阪市や地域包括支援センター等と連携をとりながら、アドバイスを受けサービス向上に生かしている。また松阪市の地域密着型部会に定期的に参加している。	松阪市や地域包括支援センターの担当者と日頃から連携し協力体制をとりながら、アドバイスをサービス向上に活かしている。運営推進会議や地域密着型部会に参加し情報交換を行っている。介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や社外研修等で学んできた事をカンファレンスで伝達研修を行うことや身体拘束・虐待防止委員会(法人全体)を設置することで職員への周知徹底を図っている。	研修で学んだ事をカンファレンスで伝達研修を行っている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し、全職員が身体拘束・行動制限の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。拘束と思われる事例(痣等)が発生した場合は家族に十分説明し、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や社外研修等で学んできた事をカンファレンスで伝達研修を行うことや身体拘束・虐待防止委員会(法人全体)を設置することで職員への周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や社外研修等で学んできた事をカンファレンスで伝達研修を行うことやマニュアルを設置することで職員への周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様や家族様に施設を見学して頂く機会をつくる等の配慮を行うと共に、説明の時間を十分に取る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見を求めたり、運営推進会議にて家族様代表として意見を出してもらう様に努めている。	家族の来訪時に直接意見を聴いたり、運営推進会議に家族代表から出された意見を運営に反映するよう努めている。意見や要望を「苦情対応記録」に記入し全職員で共有・確認している。毎月、担当者が一人ひとりの日常の様子を書いた手紙を郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り等の機会に職員の意見や提案を聞いたり、定期的に法人理事長との個々の面接の機会を設け対応している。	管理者は毎月のカンファレンスや申し送り時に職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。法人理事長は全職員との個人面接を実施し、一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。また、職場環境・条件の整備に努め「職場を良くする会」の要望でゴールデンウイークに休み手当てが支給された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営側と『職場を良くする会』が不定期に会合を持ち職場、環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量や経験を把握する個人評価表(チェック表)の利用、研修内容に合わせて参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松阪市介護事業者等連絡協議会の地域密着型部会に参加して2か月に一度、交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談時に本人様、家族様の不安の解消に努めると共にケアマネやケースワーカーとも連携して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や事前の面談時に困り事や要望を聞き納得して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様、ケアマネ、ケースワーカーと相談して複数の選択肢を提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において共に過ごしている家族という気持ちで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や状態を毎月『家族様への手紙』で報告して信頼関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会には快く受け入れ、逢いたい人や行きたい場所に行けるよう家族様の協力のもと支援を行うと共に、知人への手紙のやり取りを行っている。	面会に来てくれた友人と一緒に散歩をしたり、手紙のやり取りを続けている方もみえる。YouTubeでお祭りの様子を見たり、花火を見に行くなど、一人ひとりの希望にそって馴染みの人や場所との関係継続に努めている。家族の協力で墓参りや馴染みの店へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が円滑に進むように職員が調整役となって支援したり、居室に閉じこもる事のないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても利用者様、家族様の意向を汲んで退所及び退所後の相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を導入し個々の希望や意向を把握しやすい環境を作り、カンファレンス等で職員間での情報の共有、個別での申し送りを活用し利用者様ごとの意向・思いを職員全員へ周知できる様に努めている。	担当制を取り入れ、一人ひとりの言動や表情から思いや希望を把握し、個別の申し送りノートに記入している。全職員が個々の情報を確認し共有しながら、利用者の日々の思いや希望を周知し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、ケアマネ、ケースワーカー、介護サービス提供者等からの情報をアセスメントとして活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動、動作、発言、表情から身体状況や精神状況を把握し申し送りやカンファレンスにて情報共有に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスは毎月実施。個別には3ヶ月に一度のプラン見直し・評価を基本とするが、変化が見られれば対応する。家族様の意向や要望も出来る限り反映するように努めている。	担当者が3ヶ月毎にモニタリングを実施し、利用者に状態変化がみられたらケアプランの見直しを行っている。毎月の職員会議でカンファレンスを行い、意見を出しあい、家族の希望を聞いて作成している。家族の意向や要望、医師の意見を反映させた介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に入居者様の状況や状態、バイタル、排泄、食事量、入浴、体調の変化を記載することにより職員間で情報を共有してケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様の要望には出来る限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しもの等には入居者様の身体状況が許す限り参加出来るよう支援に努めている。また傾聴ボランティアに来園して頂く等の地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関を持ち、毎月の定期受診や不定期にて往診を行っている。提携医療機関以外の医療機関の受診には紹介状を書いて頂き早期発見、早期治療に努めている。	全員が事業所の協力医がかかりつけ医になっており、毎月の定期受診や不定期に訪問診療が行われている。他科受診は協力医に紹介状を書いてもらい受診し適切な医療体制が取られている。特養の看護師が週に一度訪問し健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養より週1回、看護師に訪問して頂き健康相談、体調管理にアドバイス等をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供はもとより、主治医、家族様、ケースワーカーと情報交換しながら退院後の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、グループホームとしての『入居者様の重度化の指針』を定め家族様に説明を行って意向を確認している。	現在看取りは行っていないが、入居時に本人・家族に「重度化の指針」を説明し意向を確認している。重度化した場合、事業所の出来ること出来ないことを説明しながら、家族と協議の上、特養・病院等に受入れ先を確保し誠意をもって支援に取り組んでいる。□	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生対応マニュアルを設置したり、社内研修でも取り上げて実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。地域の自治会長にオブザーバーとして参加依頼をお願いすることで地域との協力体制を構築している。	年2回、隣接する特養と合同で火災・地震・津波・風水害など様々な災害を想定し防災訓練を実施している。運営推進会議において地域防災の情報をいただいたり、一次避難所の受け入れなど自治会と連携した避難支援体制づくりに努めている。自家発電装置・ヘルメットの設置、食料・水などの備蓄をしている。	様々な災害を想定したマニュアルを充実させ、職員の役割を明確にし、いざという時に適切に対応できるよう取り組まれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対して画一的な声掛けをせず、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。面会記録を個別シートに変えるなど個人情報に関する書類の管理・保管に配慮している。入居時に写真掲載許可の確認を行っている。	一人ひとりの性格やその日の状態を考慮し、画一的な声掛けや誘導はせずプライバシーに配慮した対応を心掛けている。面会記録を個別シートに変えるなど個人情報に関する書類の管理・保管に配慮している。入居時に写真掲載許可の確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意見、意向を尊重して説明を行い自己決定をして頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において日課にとらわれなく入居者様のペースにあわせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に一度、散髪に来て頂いたり、職員が髪を結う等の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握し献立に取り入れたり、季節の特別食等は、好みの食材、料理を提供している。	利用者の嗜好や希望を取り入れて献立を決めており、アレルギーのある方には別メニューを提供している。デイサービスの調理室で調理し、各ユニットのキッチンで盛り付けている。また、菜園で収穫した旬の食材を使ったり、行事にあわせた手作りおやつを提供し利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに摂取量をケース記録に記載、問題があれば主治医や看護師へ相談、指示を仰いでいる。食事・おやつ時の水分補給以外にも、水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ごとのうがいの声掛けの実施と介助、義歯使用の入居者様は毎日の洗浄消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して各入居者様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛け、介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、トイレ誘導の声掛け、排泄介助を行っている。現在2名の利用者が布パンツで自立している。ほとんどの利用者がパッドとりハビリパンツを使用しており、夜間のみポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の摂取で便秘の予防に努めている。牛乳の苦手な入居者様にはコーヒー牛乳やミルクティとして提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本、日曜日以外、毎日実施している。季節感を楽しんで頂けるように環境作りに努めている。同姓介助を希望される方には希望に添う様に行っている。	入浴は一応予定を決めているが、利用者の体調や希望にそって日曜日以外の午前・午後に週2回以上入浴支援を行っている。入浴拒否や女性介助希望者には可能な限り対応している。入浴剤やゆずを入れて季節や香りを感じたり、1対1で会話をしながら入浴を楽しんでいる	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息は自由にして頂いている。各入居者様のリズムで就寝、起床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の綴りを各入居者様別にファイルに綴じる又はケース記録に綴じて目的、副作用、用量、用法を職員間で周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や畑仕事等の日常生活役割や月ごとの行事、デイサービスや小規模特養での慰問行事を通して楽しみを見出して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況、天候を考慮して散歩や外気浴、買い物を楽しんで頂いている。年数回、花見や紫陽花、紅葉見学も実施している。	気候の良い時期には、散歩や敷地内での外気浴やお茶を楽しんでいる。また、職員と買い物に出かけたり、地域や同一法人の特養・デイケアの行事に参加している。季節毎の花見や家族との外出支援など、個々の希望にそって出来るだけ外出できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持っておられる方もあり、買い物の際には欲しい物の購入に当てている。預り金もあり入居者様の希望があれば自動販売機にてジュース等の購入をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙(代筆も含む)も自由にして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の花を飾ったり、壁には季節ごとの作品や行事の写真を展示して季節感の演出に努め、夏には簾・よしず・風鈴を使用し季節感を出している。	居間兼食堂など共有スペースには庭の花を飾ったり、季節をモチーフにした壁面を掲示し四季を感じている。オープンキッチンから調理の様子、音や匂いを感じている。温度や湿度管理を行い快適な生活空間作りを心掛けている。生活感や季節感をとり入れた家庭的な雰囲気の中で、利用者が居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや長椅子、ソファを利用し入居者様同士、時には職員も交えて談話したり、自由に過ごせる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者様、家族様の希望に応じて使い慣れた家具などを持ち込みして頂き、居心地の良い居室の提供に努めている。	居室には、ベッド・エアコン・洗面台・クローゼットが設置され、使い慣れた家具やテレビなどが持ち込まれている。孫の写真や手紙を飾ったり、それぞれの思いや入居前の生活が継続できるように配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりや介助パーを設置、居室の前には各入所者様のネームプレートを飾り、自室やトイレの場所を明示する等の工夫を実施している。		